

関係者間の情報共有の課題

地域の医療・介護等の情報が不明

医療資源が不明

- ◎地域の医療資源が分からない
- ◎地域で在宅医療をしている医療機関が分からない
- ◎訪問診療可能な医療機関の情報が整理されていない
- ◎訪問可能な精神科のドクターがいない（情報が無い）
- ◎症状によってどの医療機関に依頼するか迷う
- ◎地域の歯科のわかりやすい情報がほしい

介護資源が不明

- ◎他の介護事業者がどんなサービス内容、雰囲気なのか分からない
- ◎事業所の特徴・強み・セールスポイントが分からない
- ◎新設事業所の情報をいち早く知りたい
- ◎介護サービス事業所がたくさんありすぎてわからない
- ◎患者さんにどの事業所が合うか判断が難しい
- ◎空室情報がタイムリーにわからない

情報が一元化されていない

- ◎情報が整理されていない
- ◎各施設・医療機関のウェブサイトではわかりにくい

その他

- ◎在宅に対応している薬局がどこかわからない
- ◎インフォーマルサービスの情報が不足
- ◎施設の「質」が不明

患者・利用者の情報が不明

情報が足りない

- ◎利用者さんの情報が足りず情報伝達ができない
- ◎患者・利用者さんの経済的な情報がわからない
- ◎患者さんの普段の生活が見えにくい
- ◎転院など経過の長い人の情報がわからない
- ◎救急で搬送されても身元、家族、ケアマネ、ケアプランがわからない
- ◎患者さんの家族がケアマネ等を把握していない

共通の情報ツールがない

- ◎情報伝達の方法・ツールが統一されていない
- ◎チーム全体に発信する方法がない
- ◎受診同行以外の情報交換ツールがほしい
- ◎住診記録を残してほしい（施設に保管）
- ◎フェイスシートの情報が多くポイントが絞れない

多職種間で通用する「共通言語」がない

- ◎各職種間で専門用語がよくわからないことが多い
- ◎それぞれの職種で会話しているようでも実は噛み合っていない
- ◎医療情報は理解しにくい
- ◎医療情報は日本語で示してほしい

関係者間で情報共有ができていない

- ◎他職種間で共通の申し送りがなく困ることがある
- ◎入院した患者さんの情報が色々なところから届きよわからなくなる
- ◎情報提供書の内容が活かされているかわからない
- ◎毎月、報告書をもらうが見ただけで終わってしまう
- ◎医療と介護の間で共通の目標を持つことが難しい
- ◎医療と介護間での情報の共有が難しい
- ◎医療情報を提供したいがノウハウがない
- ◎医療機関に連絡するタイミングに迷う
- ◎患者のサービス提供表がタイムリーに入手できれば
- ◎介護からの報告が少ない
- ◎担当者会議後の連絡・情報交換が少ない
- ◎各職種が一番何を知りたいのかを知りたい

関係職種・施設の種類に関する知識が不足

- ◎他職種が行える仕事の範囲の理解不足
- ◎ケアマネの仕事内容が分からない
- ◎急性期病院の病床状況や役割が理解されていない
- ◎ショートステイサービスについて理解してほしい
- ◎ケアマネ、ドクターには施設の違いをもっと理解してほしい
- ◎セラピストをもっと利用してほしい
- ◎訪問看護の認知度が低い

個人情報保護の弊害

- ◎個人情報保護が連携を阻んでいる
- ◎情報の共有とプライバシー保護のバランス
- ◎病院等に情報提供を依頼しても「個人情報なので伝えられない」と言われることがある

忙しい→お互いの顔が見えない（前掲、シート2）

- みんな時間がない・忙しい
- 連携のきっかけがない
- 顔が見えない

連携の各主体における課題（前掲、シート2）

- 医療側の課題
- 介護側の課題
- 薬局・薬剤師に関する課題
- 歯科医のさらなる連携が必要
- 札幌市（行政）の課題
- 地域の課題

誰がコーディネートするのか？

- ◎核となる人がいない
- ◎業種間の取りまとめ役が必要